

魅力ある学校づくり協議会（志村小・志村四中）第8回協議会議事録（要旨）

- 1 開催日時 令和2年11月16日（月）午後6時30分から午後7時30まで
- 2 開催場所 志村四中 3階 ランチルーム
- 3 出席者 協議会委員 18名 【欠席者4名】
傍聴4名
学校配置調整担当課長、新しい学校づくり課長
新しい学校づくり課学校配置調整第二グループ係長
新しい学校づくり課職員2名

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、マスクの着用や手指の消毒、会場の換気を行うなどの取組を実施した。

※協議会会長が体調不良のため欠席となった。協議会会長の意向により、長谷川委員が会長の職の代理を務めた。

1 開会

2 協議会会長代理 挨拶

昨年の11月18日に第1回協議会を開催して、本日まで計8回、1年間にわたり協議を重ねてきた。この間コロナ禍において、なかなか協議が進まなかったことは申し訳ないと思う。

本日の協議会で、前回の協議会で決定した意見書を教育委員会宛てに提出になる。本来、協議会の取りまとめに尽力された協議会会長から教育長に意見書を提出していただきたかったが、体調不良により欠席のため、私が協議会会長に代わり教育長に提出する。本日までの協議会委員の皆様にご協力いただいたこと、心より感謝申し上げます。

子どもたちの安全が一番だと考えているので、1日も早く耐震性豊かな防災に強い校舎ができることを祈っている。

3 協議会から教育委員会へ意見書提出

《事務局より意見書を読み上げ》

会長代理：事務局より意見書の読み上げがあったが、この内容で意見書を提出する。この意見書が基本となって、次の段階に進むことはみなさんご承知の通りである。よろしいか。

（異議なし）

それでは、中川教育長へ意見書を提出する。

《意見書提出》

会長代理：教育長からご挨拶いただく前に、一言お伝えしたいのが、この協議会は小中一貫型の学校を前提にして協議をしていた訳ではなく、子ども

たちの安心・安全を第一に考えて協議を進めてきたことを皆様にご理解いただきたい。

《教育長挨拶》

教育長：本日はご多用な中、また新型コロナウイルスの勢いが増して不安な中、協議会にご出席いただきましたこと改めて感謝申し上げます。

まず、初めに協議会委員の皆様のご尽力により意見書をまとめていただいたこと、そして本日体調不良により欠席されているが、協議会会長には協議会の取りまとめにご尽力いただいたことに重ねて感謝申し上げます。

1年前、志村小を現在の場所で改築できないかということで、この協議会はスタートした。本日、協議会の意見をまとめた意見書が提出されたが、ここに至るまで協議会委員の皆様の中でも様々な思いがあったと思う。教育委員会としても、子どもたちのことを一番に考え、協議を重ねていただいた意見書を最大限に尊重し、意見書に盛り込まれた内容の実現に向け、誠実かつ真摯に取り組んでいく。

会長代理の挨拶にもあったように、私どもも「子どもたちの安心・安全な居場所」、そして「学力の定着向上を図る学び舎」、この2つは学校の大きな使命と認識しており、今いただいた言葉をきちんと守りたいと思っている。

引き続き、皆様にご協力いただきながら、小中一貫型の学校整備を進めていく。

4 確認事項（主な協議や、意見・質問に対する事務局の回答等）

○志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会について

委員：検討会のスケジュールの中に委員推薦や委員決定があるが、検討会の委員が決定した段階で、作業部会への割り当てが決まるということか。

事務局：第1回検討会が始まってから作業部会に割り当てていく流れになる。

委員：PTAから委員が選出されるということだが、複数の作業部会を兼任することも可能か。

事務局：兼任も可能と考えているが、兼任が負担であれば、それぞれの作業部会ごとに委員を割り当てることもできると考えている。そのため、作業部会のPTAの枠も1名から2名と幅をもたせている。

少しでも負担が軽減できればと考えている。

委員：1つの作業部会にしか参加できないのか。例えば、その話し合いに参加したいと思った場合、同じ人が複数の部会に参加することはできるのか。

事務局：作業部会は3つあるが、それぞれの団体から1名から2名と幅をもたせており、必要な人数をいれることも可能と考えている。同じ人が複数の作業部会に出席することも、負担を軽減するために委員それぞれがそれぞれの作業部会に出席することもどちらも可能と考えている。

委員の皆様がやりやすいように出席者を構成していただきたい。

委員：検討会は、現在の予定だと令和3年1月下旬に発足となっているが、検討する期間は概ねどれくらいを予定しているのか。PTAの役員は、基本的に1年から2年でメンバーが変更になる。検討会の設置期間は、どれくらいを想定しているのか。

事務局：他自治体では、協議会の後の会議体で2年ほど協議している。そのため、2年くらいかかるのではないかと考えている。

第1回の検討会では、概ねのスケジュールをお示ししたいと考えている。

5 協議会委員から感想

協議会を終えて、委員から一人一言ずつ感想をいただいた。

委員：これまでの協議会の中で活発な議論をしていただき、協議会の意見を意見書にまとめていただいた。この意見については、教育委員会では意見書の内容を最大限尊重し、小中一貫型の学校を推進していくことになる。この意見書に沿って、志村小と志村四中との小中一貫型の学校が開設されれば、板橋区の小中一貫型の学校の初めてのケースとなる。

協議会は終了となるが、具体的な議論は検討会で協議していくことになる。ぜひ地域の子どもたちのために引き続きご協力をお願いしたい。

委員：板橋区初の小中一貫型の学校になるので、ここまで議論してきたことをぜひ実現したい。

建物といったハード面はコンセプトが固まれば、専門家がつくってくれるが、ソフト面についてはしっかりとつくり上げないと、良い学校にはならないと思う。建築までまだ数年あるので、日々利用する子どもたちや先生方のことを考え、ソフト面も含めて引き続き検討してほしい。

小中一貫教育の教育内容も含めて、良い学校をつくっていくという目標に向かって、地域住民や小・中学生の保護者が一丸となって取り組めば成功すると思う。

委員：これまでの協議会では、地域関係者としての立場で発言してきた。特に跡地活用、そして防災関係のことについて話をした。また、学びのエリアの中での学校間の連携についても話をした。意見書の中にしっかりと盛り込まれているので、良かったと思っている。引き続き、検討していただきたい。

委員：通学区域の選定は、公明正大にやっていただきたい。また、いじめ問題は子どもの一生がかかっていることなので重要だと思っている。どんな学校でも、いじめは発生してしまう可能性があるなので、いじめが発生した時にきちんと対応できるようにしてほしい。校舎が新しいだけでなく、いじめ対策が日本一の先進校を目指していただきたい。

委員：地域に根差した教育環境を目指す場合、新しいことを始めるには、や

はり地域の協力や理解が得られなければ、何も始めることはできない。新しい関係をきちんとつくらなければならないので、私も何らかの形で協力していきたい。

委員：仕事柄、未就学児と接しているが、将来この子たちがこの新しい学校に通うことになると思うと、少しでも力になりたいと思い、この協議会に参加してきた。これからも、志村四中関係者として、協力できたらと思っている。

委員：委員の皆さんが言っていたように、新しい学校をつくるには、通学している児童・生徒のことを一番に考えるべきだと私も思う。しかし、地域関係者や卒業生のことも考えた方がいい。私自身、卒業生であり、自分が通っていた学校を懐かしく思う部分もある。志村小も志村四中も歴史があり、卒業生も多くいるので、学校の伝統や歴史を保存することが大切だと思う。意見書にも挙げたが、学校の伝統や歴史の保存について、これから具体的な検討をしていくと思うが、学校の歴史等をより良い形で残して行ってほしい。

委員：志村坂上地区の学校の子どもたちとはずっと関わってきた。志村四中は志村坂上地区だけでなく、蓮根地区など違う地区から通う生徒もあり、違う地区から通うことの課題について私も分かる。板橋区初の小中一貫型の学校ということで、不安も多いが、私のこれまでの人とのつながりを生かしながら、良い学校にしていくお手伝いをしていきたいと思っている。

委員：志村小と志村四中は、板橋区初の小中一貫型の学校となる。初めてのことを実施する場合、批判も当然出てくると思う。ビジョンをお題目にしないような、強いリーダーシップを持って進めてもらいたい。

委員：小中一貫型の学校になることに不安点もあるが、すでに小中一貫型の学校がある他自治体に、学校運営で課題になっている点等を聞いてはどうか。そして、その課題に対して板橋区はどう対応するか考えていけば、より良い学校になると思う。そうすることで、板橋区の小中一貫型の学校が素晴らしいと思われる学校になると思う。

委員：志村小は自分の子どもたちが通っている。長年、志村小と関わってきたので、とても愛着のある学校だ。その志村小が老朽化により改築の話が出た時に、最初は現在の志村小の場所で改築してほしいという想いがあった。

しかし、協議会で協議を進める中で、志村四中との小中一貫型の学校の話が挙がり、杉並区の高円寺学園を視察して、小中一貫型の学校も悪くないと思うようになった。これから良い学校ができるのが楽しみである。

委員：志村小には自分の子どもが通っており、長年志村小と関わる中で、学校教育や学校の教育環境の変化を感じてきた。今回の志村小と志村四中との小中一貫型の学校の話が出て、また大きく変わろうとしている。課題も出てくるだろうが、子どもたちのために少しでも良い学校にな

ってほしいと思う。

委員：第1回協議会から出席していて、当初は現在の志村小の場所に残す方向で考えていた。志村小は116年の歴史があり、志村小のあの場所みなさんの思いが詰まっているので、何とか現在の志村小の場所で改築できないかと思った。しかし物理的に難しいという事情もあり、これを機に新たな歴史の第一歩を踏み出すチャンスであると前向きに考えるようになった。

志村四中の学びのエリアは、志村小以外にも小学校が3校あり、各小学校とも平等に扱っていただけるよう、今後ともお願いしたい。

委員：教育面については専門の方々にお任せするが、地域関係者として、子どもたちが安心して通学・勉強できるような環境づくりを第一に今後も協力したいと考えている。

委員：私の家では4代続けて志村小に通っていた。志村小のことがみんな大好きで、志村小の高台にある環境がとても良いと思っていた。私も第1回協議会から出席しているが、最初は志村小を現在の場所に残してほしいという気持ちがあった。

しかし、板橋区初の小中一貫型の学校ということで、とても夢があると思うようになった。これからたいへんなことが出てくるかと思うが、新しい学校ができるのを楽しみにしている。

また、町会としても、児童・生徒の安心・安全を見守りたいと思う。

委員：協議会委員の皆様が、夕方の遅い時間に熱意をもって協議をしている姿を見ると、板橋は本当に皆さんに愛されていると感じている。

志村四中の小中一貫教育の取組の1つに、志村四中の生徒がリトルティチャーとして志村小の児童に勉強を教える取組がある。生徒達は、リトルティチャーに選ばれることを名誉だと思っており、小学生と接することで、成長できている。

今後も小中一貫教育の取組を継続させていき、ソフト面でもみなさんにご心配いただくような内容にならないよう、教職員一同取り組んでいく。

委員：この協議会が昨年11月18日発足してから、本日11月16日までの1年間、協議会委員の皆様には、志村小・志村四中のために大切な時間を使っていたことに感謝申し上げます。令和2年度、志村小は116周年になる。予定では、令和9年4月1日に新しく小中一貫型の学校になるということなので、それまでに120周年を迎えることになる。大きな周年を迎え、新たなスタートが切れることはとても素晴らしいことだと思う。

また、今度2年生が、志村四中の生徒へインタビューするという取組を実施する。子どもたちも小中一貫型の学校に向けて、素敵な志村四中のお兄さん、お姉さんに会えるのを楽しみにしている。

このような中で、新しい小中一貫型の学校は、志村小だけでなく、同じ学びのエリアの志村坂下小、緑小、北前野小の小学校4校が一体と

なって、小中一貫型の学校ができると思っている。

教育長：協議会委員の皆様の一一人一人の話を聞いて感じたことは、学校というのは地域に脈脈と根差しているということだ。だからこそ、行政は地域の声を十分に感じ取って、学校づくりに至らなければならないということに非常に強く感じている。

将来、子どもたちが活躍する社会では、正解のない問いに、知恵を出し合い、最適な解や納得する解を導き出すことが求められると思う。志村小関係者の皆様が、現在の志村小の場所で改築したいという強い思いを持ちながら協議を進める中で、志村小と志村四中との小中一貫型の学校という結論をみなさんでつくり上げている。こういう姿は、子どもたちにとってすばらしいモデルになる。

今日皆様からいただいた言葉、そしてこれから始まる検討会での皆様の意見を十分に尊重し、志村小と志村四中との小中一貫型の学校の建築に向けて、誠心誠意努力する。これまでの皆様方のご尽力、ご理解、ご協力に対して心から御礼申し上げます。今後も引き続きご協力をお願いしたい。

6 今後の予定

協議会は第8回協議会で終了となり、今後は「志村小・志村四中 小中一貫型学校設置検討会」に移行する。

第1回検討会

日時：令和3年1月下旬頃

場所：志村第四中学校 3階 ランチルーム